

九州歴史資料館 個別施設計画について

【施設の概要】

対 象 施 設	九州歴史資料館		
所 管	教育庁教育総務部文化財保護課		
所 在 地	福岡県小郡市三沢5208-3		
敷 地 面 積 (m ²)	43,438.62	建 築 面 積 (m ²)	8,956.06
主 構 造	R C	延 床 面 積 (m ²)	11,802.07
主 要 建 築 物	本館棟、一般収蔵庫棟		

九州歴史資料館は昭和47年に本県を中心とした歴史資料の収集・保管・調査・研究・展示を行う施設として設置されました。この間、各地の遺跡からの出土品や散逸・消滅寸前の歴史・考古資料の収集、保管、調査、研究を行ってきました。

また、国指定特別史跡である大宰府跡の発掘調査・研究とともに、出土遺物の復元や科学的保存処理を行い、これを公開・展示し、文化財の保護と文化財愛護思想の普及に努めてきました。館の老朽化に伴い、平成21年度に、小郡市三沢に新たに本館棟が竣工し、平成22年7月に太宰府市から移転しました。

【個別施設計画の策定単位】

九州歴史資料館の個別施設計画については、当該施設を構成する建築物を①本館棟、②一般収蔵庫棟の2つに分け、それぞれについて今後の改修等に関する計画を策定しました。

九州歴史資料館
(本館棟)
個別施設計画

施設類型	県民向け施設
整理番号	55
施設所管課	文化財保護課

令和3年2月

❀福岡県❀

九州歴史資料館（本館棟）
個別施設計画

目次

第1章	概要	1
	(1) 対象施設の概要	
	(2) 対象施設の活用状況	
	(3) 計画期間	
	(4) 位置図等	
第2章	優先順位の考え方	3
	(1) 施設間の優先順位	
	(2) 施設内での優先順位	
	(3) その他	
第3章	個別施設の状態等	4
	(1) 個別施設の状態	
	(2) 建物全体の現存率	
	(3) 目標耐用年数	
第4章	対策の内容等	8
	(1) 改修・更新について	
	(2) 対策の平準化について	
	(3) 対策の内容等	

第1章 概要

(1) 対象施設の概要

対 象 施 設	九州歴史資料館		
所 管	教育庁教育総務部文化財保護課		
整 理 番 号	55	竣 工 年 度	平成 21 年度
所 在 地	福岡県小郡市三沢 5 2 0 8 - 3		
敷 地 面 積 (m ²)	43,438.62	建 築 面 積 (m ²)	8,956.06
主 構 造	R C	延 床 面 積 (m ²)	11,802.07
主 要 建 築 物	本館棟、一般収蔵庫棟		

(2) 対象施設の活用状況

建 物 の 名 称	本館棟				
棟 番 ・ 枝 番	1004	-	1	竣 工 年 度	平成 21 年度
建 築 面 積 (m ²)	7,284.36		延 床 面 積 (m ²)	9,475.92	
構 造 ・ 階 数	R C 造 地上 2 階				
各 階 面 積 及 び 用 途					
階 別	階 床 面 積 (m ²)	主 な 用 途 (室 名 他)			
2F	2,191.56	第 3 展示室、研修室、会議室、図書閲覧室、学芸調査室、文化財調査室、文化情報広場			
1F	7,284.36	第 1 ・ 2 ・ 4 展示室、特別収蔵庫、整理作業諸室、保存科学諸室、館長室、副館長室、総務室、応接室、写真室、情報管理室、ボランティア室、警備室、中央監視室、清掃員控室			

本館は昭和 47 年に本県を中心とした歴史資料の収集・保管・調査・研究・展示を行う施設として設置されました。この間、各地の遺跡からの出土品や散逸・消滅寸前の歴史・考古資料の収集、保管、調査、研究を行ってきました。

また、国指定特別史跡である大宰府跡の発掘調査・研究とともに、出土遺物の復元や科学的保存処理を行い、これを公開・展示し、文化財の保護と文化財愛護思想の普及に努めてきました。館の老朽化に伴い、平成 21 年度に、小郡市三沢に新たに本館棟が竣工し、平成 22 年 7 月に太宰府市から移転しました。

(3) 計画期間

計画期間は令和 8 年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図



②施設写真

全景



第2章 優先順位の考え方

(1) 施設間の優先順位

当該施設は、築11年で目標使用耐用年数である65年に満たないことから、計画期間中の更新は計画していません。多数の県民が利用する施設であること及び文化財保管の重要性の観点から優先して修繕等を行い、安全性を確保するとともに、将来の安定的な文化財の保管・展示が可能な施設としての機能を一定レベルに維持していきます。

(2) 施設内での優先順位

施設としては鉄筋コンクリート造による一般的な建物であり、平成30年度に第1・3展示室天井の耐震補強工事を行いました。当館は文化庁が認証する「公開承認施設」として重要文化財の保管・展示を行うために365日24時間体制で空調を維持管理する必要がある、特に特別収蔵庫及び展示室の温湿度管理のため専用の空調設備を備えています。しかしながら、機械設備、電気設備については開館から今まで1度も整理が行われていないものもあり、24時間体制で稼働していることで機械に相当な負担がかかり続けています。まず、建築物としての機能を維持するため、これらの設備等の改修を優先的に行っていきます。さらに、その他予防型保全管理のうえでの標準的な改修時期に合わせた計画的な改修を行っていきます。

(3) その他

敷地内には本館棟のほか、一般収蔵庫棟があります。

第3章 個別施設の状態等

(1) 個別施設の状態

平成30年度に第1・3展示室天井の耐震補強工事を行いました。24時間稼働している空調設備をはじめ、すでに機械の運転時間が耐用年数を超えているものがあります。設備導入から10年程度経つため、電気設備、照明設備、給排水衛生設備などについても、不具合が生じてきており、事後保全による修繕を行っていますが、予防保全による改修はできていない状態です。

(2) 建物全体の現存率

現存率算定表

施設名称	九州歴史資料館		建物名称	本館棟				
所在地	小郡市三沢5208-3		棟番・枝番	1004	-	1	築年数	11年
建築年度	平成21年度	建築面積	7,284.36 m ²		現存率	84.0	想定耐用年数	65年
構造・階数	RC 2	延面積	9,475.92 m ²					
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率		①×②	
構造	躯体	40	RC	11	100.0		40.00	
	小計							40.00
主要部仕上げ	屋根・防水	20	その他	11	80.0		16.00	
	外壁	20	コンクリート	11	80.0		16.00	
	小計							32.00
電気設備	受変電設備	10		11	60.0		6.00	
	小計							6.00
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		11	60.0		6.00	
	小計							6.00
合計							84.00	

※平成30年施設調査時のデータを基礎に算定

この結果、九州歴史資料館の本館棟の現存率は「84.0」となります。

○建物各部位の現存率

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	R C	100.0	耐震診断による Is 値 ¹	Is 値が 1.0 以上 もしくは新耐震基準
屋根	その他	80.0	防水層からの漏水 またはその痕跡	・部分的にひび割れ や部材の劣化がある ・少数の部材に少し の劣化がある ・経年 10 年以上
			防水層の劣化	・部分的にひび割れ や部材の劣化がある ・少数の部材に少し の劣化がある ・経年 10 年以上
			経年（新設もしくは改 修後）	経年 10 年以上
外壁	コンクリート	80.0	外壁のはく落、浮き、 ひび割れ等の劣化	・部分的にひび割れ や部材の劣化がある ・少数の部材に少し の劣化がある ・経年 10 年以上
			漏水の発生・痕跡の有 無	・部分的にひび割れ や部材の劣化がある ・少数の部材に少し の劣化がある ・経年 10 年以上
内壁	石こうボード EP	60.0	劣化	仕上げ材等の劣化が 多く認められるが、 部分修繕で対応可能
天井	吸音板 石こうボード EP 化粧石こうボ ード	60.0		
床	タイル貼り	60.0		
建具	不明	80.0	劣化	仕上げ材等に劣化が 部分的に発生してい るが機能上問題なし
			開閉作動・取付け状態	仕上げ材等に劣化が 部分的に発生してい るが機能上問題なし
電灯・電話設 備	電灯設備 電気時計 拡声設備 避雷設備 電話設備	60.0	定期点検等の結果	軽微な改善箇所の指 摘があり、部分修繕 が必要
			経年（新設後更新後）	経年 10 年以上
受変電設備	あり	60.0	定期点検等の結果	軽微な改善箇所の指 摘があり、部分修繕 が必要

¹ Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
			経年（新設後更新後）	経年 10 年以上
自家発電設備	自家発電設備	60.0	定期点検等の結果	軽微な改善箇所の指摘があり、部分修繕が必要
			経年（新設後更新後）	経年 10 年以上
動力設備	—	—	経年（新設後更新後）	—
非常用照明・ 火災報知設備	非常用照明 火災報知設備	60.0	定期点検等の結果	軽微な改善箇所の指摘があり、部分修繕が必要
			経年（新設後更新後）	経年 10 年以上
その他設備	インターホン TV 共同受信 防犯設備等 表示設備	60.0	経年（新設後更新後）	経年 10 年以上
空気調和・換 気・排煙設備	空気調和設備 換気設備 排煙設備	60.0	定期点検等の結果	軽微な改善箇所の指摘があり、部分修繕が必要
			経年（新設後更新後）	経年 10 年以上
給排水・衛 生・給湯設備	給排水設備 衛生設備 給湯設備	60.0	定期点検等の結果	軽微な改善箇所の指摘があり、部分修繕が必要
			経年（新設後更新後）	経年 10 年以上
消火設備	消火設備	80.0	定期点検等の結果	使用上、管理上の問題を指摘されたが、機能上問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 10 年以上
エレベーター 設備	エレベーター設 備	80.0	定期点検等の結果	使用上、管理上の問題を指摘されたが、機能上問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 10 年以上

○特殊設備

調査部位	種類・形式等	現在の状況
チラー	空気熱源スクリュウヒートポンプ 2 台	運転時間が大幅に超えているため、オーバーホールして部品の交換・調整が必要
X線CTスキャナ装置	スキャナ装置 制御用PC 無停電電源装置	制御用PCハードディスク一部機能喪失のためPCの更新及び無停電電源装置の更新が必要

(3) 目標耐用年数

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
2009	11	新	—	—	—	—	65 年

経年による部分的な劣化は見られるものの、建物に大きな問題が無いため、九州歴史資料館（本館棟）の目標耐用年数を原則どおり 65 年（残年数を 54 年）と設定します。

第4章 対策の内容等

(1) 改修・更新について

築11年で耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は54年となり、計画期間に施設の更新（建替え）を行う予定はありません。計画期間の改修費用は、約2億4千2百万円になります。

(2) 対策の平準化について

優先順位を選定の上で費用や事務負担軽減等を図る観点から平準化を行い、順次改修を行うこととします。まずは、文化財保管の重要性の観点から中央監視装置の入れ替えや展示室及び特別収蔵庫の照明設備を整備します。それに引き続き、建築物としての機能を維持するため、空調関係等の機械設備の改修を優先的に行うこととします。

(3) 対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取り組みは以下のとおりとなりますが、進捗状況等により計画の見直しを行います。

(百万円)					
区分	項目	実施時期			計
		令和2年度	令和3～5年度	令和6～8年度	
主要部仕上げ	屋根・屋上、外壁、内壁、天井、床、建具	0	9	25	34
電気設備	電灯・電話設備、受変電設備、自家発電設備、非常用照明・火災報知設備、その他の設備	15	5	0	20
機械設備	給排水・給湯・ガス設備、空気調和・排煙設備、消火設備、エレベーター設備	12	96	80	188
その他	上記以外のもの	0	0	0	0
	計	27	110	105	242

※実際の予算や事業費等とは異なります。

九州歴史資料館
(一般収蔵庫棟)
個別施設計画

施設類型	県民向け施設
整理番号	55
施設所管課	文化財保護課

令和3年2月

❀福岡県❀

九州歴史資料館（一般収蔵庫棟）
個別施設計画

目次

第1章	概要	1
	(1) 対象施設の概要	
	(2) 対象施設の活用状況	
	(3) 計画期間	
	(4) 位置図等	
第2章	優先順位の考え方	3
	(1) 施設間の優先順位	
	(2) 施設内での優先順位	
	(3) その他	
第3章	個別施設の状態等	4
	(1) 個別施設の状態	
	(2) 建物全体の現存率	
	(3) 目標耐用年数	
第4章	対策の内容等	8
	(1) 改修・更新について	
	(2) 対策の平準化について	
	(3) 対策の内容等	

第1章 概要

(1) 対象施設の概要

対 象 施 設	九州歴史資料館		
所 管	教育庁教育総務部文化財保護課		
整 理 番 号	55	竣 工 年 度	平成 21 年度
所 在 地	福岡県小郡市三沢 5 2 0 8 - 3		
敷 地 面 積 (m ²)	4,3438.62	建 築 面 積 (m ²)	8,956.06
主 構 造	R C	延 床 面 積 (m ²)	11,802.07
主 要 建 築 物	本館棟、一般収蔵庫棟		

(2) 対象施設の活用状況

建 物 の 名 称	一般収蔵庫棟				
棟 番 ・ 枝 番	1004	-	2	竣 工 年 度	平成 21 年度
建 築 面 積 (m ²)	1,671.70		延 床 面 積 (m ²)	2,326.15	
構 造 ・ 階 数	R C 造 地上 2 階				
各 階 面 積 及 び 用 途					
階 別	階 床 面 積 (m ²)	主 な 用 途 (室 名 他)			
2F	654.45	一般収蔵庫			
1F	1,671.70	一般収蔵庫			

九州歴史資料館の一般収蔵庫棟は平成 21 年度に小郡市三沢に竣工し、平成 22 年に太宰府市から移転しました。主に整理作業に係る遺物の保管や保存処理のための作業用として利用しています。

(3) 計画期間

計画期間は令和 8 年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図



②施設写真

全景



第2章 優先順位の考え方

(1) 施設間の優先順位

当該施設は、築11年で目標使用耐用年数である65年に満たないことから、計画期間中の更新は計画していません。他の県有施設と比較して改修等を優先すべき個別事情は特にありませんが、施設を管理していく上で必要な対策を順次適切に行っていきます。

(2) 施設内での優先順位

現時点で改修が必要な箇所は特にありませんが、予防保全型管理のうえでの標準的な改修時期に合わせた計画的な改修を行っていきます。

(3) その他

敷地内には一般収蔵庫棟のほか、本館棟があります。

第3章 個別施設の状態等

(1) 個別施設の状態

良好な状態です。特に改修が必要な箇所はありません。

(2) 建物全体の現存率

現存率算定表

施設名称	九州歴史資料館		建物名称	一般収蔵庫棟				
所在地	小郡市三沢5208-3		棟番・枝番	1004	-	2	築年数	11年
建築年度	平成21年度	建築面積	1,671.70 m ²		現存率	92.0	想定耐用年数	65年
構造・階数	RC 2	延面積	2,326.15 m ²					
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率		①×②	
構造	躯体	40	RC	11	100.0		40.00	
	小計						40.00	
主要部仕上げ	屋根・防水	20	その他	11	80.0		16.00	
	外壁	20	塗装	11	100.0		20.00	
	小計						36.00	
電気設備	受変電設備	10		11	80.0		8.00	
	小計						8.00	
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		11	80.0		8.00	
	小計						8.00	
合計						92.00		

※平成30年施設調査時のデータを基礎に算定

この結果、九州歴史資料館の一般収蔵庫棟の現存率は「92.0」となります。

○建物各部位の現存率

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	R C	100.0	耐震診断による Is 値 ²	Is 値が 1.0 以上 もしくは新耐震基準
屋根	その他	80.0	防水層からの漏水 またはその痕跡	—
			防水層の劣化	—
			経年（新設もしくは改修後）	経年 10 年以上
外壁	塗装	100.0	外壁のはく落、浮き、 ひび割れ等の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度
			漏水の発生・痕跡の有無	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度
内壁	石こうボード EP	80.0	劣化	仕上げ材等に劣化が部分的に発生しているが機能上問題なし
天井	吸音板 石こうボード EP 化粧石こうボード	100.0		
床	タイル貼り	80.0		
建具	不明	80.0	劣化	仕上げ材等に劣化が部分的に発生しているが機能上問題なし
			開閉作動・取付け状態	仕上げ材等に劣化が部分的に発生しているが機能上問題なし
電灯・電話設備	あり	80.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 10 年以上
受変電設備	あり	80.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 10 年以上
自家発電設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—
動力設備	—	—	経年（新設後更新後）	—

² Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
非常用照明・ 火災報知設備	非常用照明 火災報知設備	80.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 10 年以上
その他設備	インターホン TV共同受信 防犯設備等 表示設備	60.0	経年（新設後更新後）	経年 10 年以上
空気調和・換 気・排煙設備	空気調和設備 換気設備 排煙設備	80.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 10 年以上
給排水・衛 生・給湯設備	給排水設備 衛生設備 給湯設備	80.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 10 年以上
消火設備	消火設備	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 10 年以上
エレベーター 設備	エレベーター設 備	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 10 年以上

(3) 目標耐用年数

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
2009	11	新	—	—	—	—	65 年

新しい建物で特に問題が無いいため、九州歴史資料館（一般収蔵庫棟）の目標耐用年数を原則どおり 65 年（残年数を 54 年）と設定します。

第4章 対策の内容等

(1) 改修・更新について

築11年で耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は54年となり、計画期間に施設の更新（建替え）を行う予定はありません。

(2) 対策の平準化について

計画期間内の改修はありません。

(3) 対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取り組みは以下のとおりとなりますが、進捗状況等により計画の見直しを行います。

(百万円)					
区分	項目	実施時期			計
		令和2年度	令和3～5年度	令和6～8年度	
主要部仕上げ	屋根・屋上、外壁、内壁、天井、床、建具	0	0	0	0
電気設備	電灯・電話設備、非常用照明・火災報知設備、その他の設備	0	0	0	0
機械設備	給排水・給湯・ガス設備、空気調和・排煙設備、消火設備、エレベーター設備	0	0	0	0
計		0	0	0	0

※実際の予算や事業費等とは異なります。